

# 伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



おけ  
桶

小林 信 男

(平成14年度作品)  
16mm映画・ビデオ  
カラー・25分

## プロフィール

住所、荒川区東尾久6-16-25

昭和4年(1929)、荒川区生れ。

平成13年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

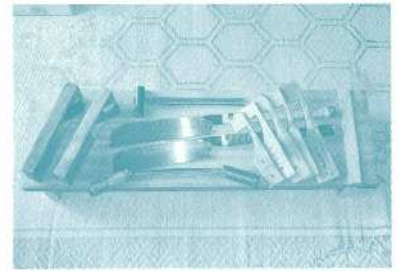
小林さんの父・由造氏は(昭和62年逝去)、上野池之端生れ。7歳の時、下尾久の親方・鈴木氏宅に弟子入りした。親方が亡くなった後、独立するには早かったため、西日暮里の森田氏に親方をかえ(「二のかえし」という)、大正期に独立した。

小林さんは、昭和22年、18歳から父について桶製作の技術と井戸掘りを仕込まれた。また、20歳の頃から3年間、父の兄弟弟子である古沢亀吉氏の下で修業を重ねた。小林さんの家は「地桶屋」といい、注文に応じてどのような桶でも作る。主に寿司用の飯台や飯櫃などを作り、修理も行っている。



## 用具・工具・材料

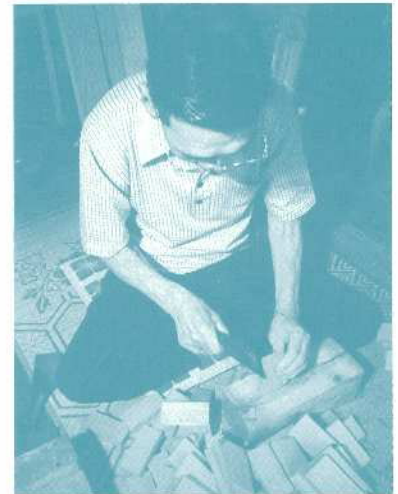
鉋（中丸鉋・外丸鉋・平鉋）、鑿、手斧、錘、物差し、鉋、銚（平銚、竹銚）、かま（側板の側面の角度をきめるための定規、桶の大きさによって異なる）、箍、輪うち（細かく割った竹に目盛りをつけた道具。仮箍を組む時に桶の大きさを見るのに使用）、かきいれ（位所を作るときに使用）、かき（木目が逆目のところを整えるのに使用）、曲尺、正直台、椀（飯台用）、檜（風呂用）など。



(用具・工具)

## 工程 一 飯台の場合 一

- (1) 【木取り】  
用途に応じて板の幅と長さを切る。板の厚みは決まった厚さで仕入れる。昔は原木で仕入れた。
- (2) 【側板をはつる】  
一枚一枚の板を鉋で斜めに叩き割る。
- (3) 【側板削り】  
内側は削り面が丸い中丸鉋で、外側は削り面がへこんだ外丸鉋で削り、カーブをつけていく。
- (4) 正直台を使い、側板同士の接続部分を削る。隙間なく丸く組めるようにする。
- (5) 【仮組立て】  
仮組立てし、寸法・枚数を決める。
- (6) 【糊入れ】  
側板の接続部分を木工用ボンドで接着する。  
昔は、続飯という飯粒を練った糊を使った。
- (7) 仮箍をかけて、天日に干し乾かす。
- (8) 内側を中丸鉋を使って仕上げる。
- (9) 【位所作り】  
かきいれで底板をはめる溝、位所を掘る。
- (10) 外側は仮箍を外して外丸鉋で仕上げる。
- (11) 【本箍がけ】  
真鍮製や銅製の箍を使用（昔は竹が使われていた）。
- (12) 内削りの後、はり合わせした底板をはめ込む。
- (13) 木口の仕上げ
- (14) 全体的にペーパーをかけて仕上げる。



(側板をはつる)



(完成品)

〈ビデオテープ〉 荒川区内の図書館で貸出ししています。貸出し期間は、1回15日間です。

(図書資料扱いのため)

〈16ミ映画〉 荒川区立南千住図書館で貸出ししています。貸出し期間は、1回5日間です。

ただし、団体登録及び16ミ映写機講習修了者の操作が義務づけられています。なお、映写機も貸出ししています。

〈問い合わせ先〉

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

南千住図書館・・・3807-7114

町屋図書館・・・3892-9821

荒川図書館・・・3891-4349

日暮里図書館・・・3803-1645

尾久図書館・・・3800-5821

荒川区立図書館のホームページ <http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>